

# 中学校英語科で逆引き設計論を効果的に実践するためのパフォーマンス評価の取組

～プレゼンテーション能力を高めるためのICT利用～

亀岡市立南桑中学校

〒621-0031  
京都府亀岡市葎田野町太田丸橋1番地

<http://www.jh.city.kameoka.kyoto.jp/nanso/>

## 1. はじめに

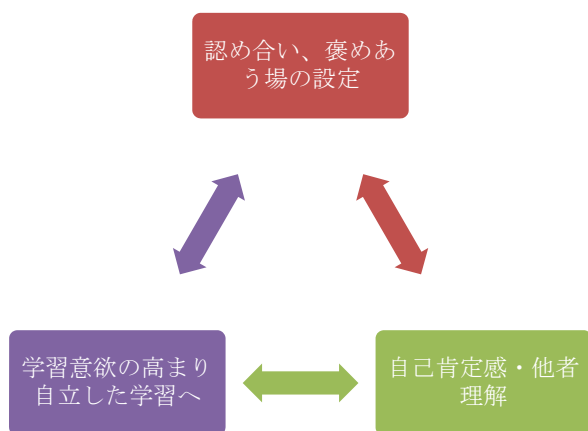
### 本校を取り巻く環境

本校は京都市の北西部に位置し、周りを田園に囲まれた1学年4クラス、2学年3クラス、3学年3クラス、特別支援学級4クラス、全校生徒361名の中規模校である。本校には4小学校から生徒が集まるが、三世代が同居する昔ながらの家庭がある一方で、共稼ぎや欠親家庭のため、家に帰っても保護者がいない環境にいる生徒も多い。家庭学習をする習慣が十分に身につけていない生徒が多く、学習に対する意欲をいかに喚起するかが課題となっている。

## 2. 研究の目的

経済・社会等のグローバル化に伴い、子供たちが国際共通語となっている「英語」のコミュニケーション能力を付けることは非常に重要な課題である。文科省が策定した「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想にも、英語を使う機会の拡充が主な政策課題の一つとして挙げられている。中学校英語教育に求められる「コミュニケーション能力の基礎を育てる」ためには英語を使用する活動を積み重ねながら、コミュニケーション能力の育成を図ることが最善であると考え

### スピーチの取組・発表



プレゼンテーション能力はコミュニケーション能力の重要な要素であり、英語科における4技能を有機的に活用することによって高めることができる。英語を習得する過程で、スピーチは効果的であるが、中学生の英語力では意を尽くせないことも多い。しかしスピーチをする生徒が、自分の作文を発表する時に

ICT 機器を利用して英文の内容に沿った画像を示すことで、だれもが理解できる発表を行い、学習段階に応じたプレゼンテーションをすることができる。関心・意欲面においても、技能習得の面においても、ICT 機器利用をパフォーマンス課題に取り入れることが効果的であると考えた。このため、逆向き設計論に基づく中学 3 年間の指導計画の中に ICT 機器を利用したパフォーマンス課題とその評価を設定し、ICT の機器を利用することが生徒の学習意欲を喚起するためにどれほど効果的であるかを研究の目的とした。

### 3. 研究の方法と内容

#### (1) 研究の経緯

本校では、これまでも中学入学時から卒業までの 3 年間を見通した教育実践に取り組んできた。英語科では、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるための反復学習の奨励とその活用を図るための自己表現活動に重点を置いて指導を進め、特に平成 19 年からは京都大学で行われた E.Forum に参加し、西岡加名准教授の指導の下で逆向き設計論について学び、**パフォーマンス課題とその評価を授業に取り入れた。**

その中で、平成 20 年度は英語科指導における 4 技能のうち、特に「書く」指導に力点を置き、自分の考えや思考の過程を書きまとめたり、説明したりする力をつける指導を進めた。

平成 21 年度からは、さらに **4 技能の統合を図るための単元構成を工夫し、3 年間を見通したカリキュラムづくりを進めてきた。**具体的には、生徒が課題に沿った英文を書き、絵や写真等の資料を添えながら、発表をする取組である。絵や図を示しながら他者に訴える力を伸ばすとともに、リスナーとなって、他者の発表を聞き、理解しようとする取組を進めることにより、4 技能のバランスが取れた能力の開発を目指す。

#### (2) 研究の方法

- ① 中学校で教える 3 年間の内容に逆向き設計論を基にしたパフォーマンス課題とその評価を設定し、計画的な指導を進める。
- ② パフォーマンスの発表の場を定期的に持ち、学習意欲の高揚を目指す。
- ③ 基礎・基本の定着を図るための家庭学習と反復練習の取組を継続して行う。
- ④ アンケートを実施し、生徒の英語学習に対する変容を調査する。

#### (3) 研究の内容

- ① 第 1 学年では自分や身の周りのことが表現できることを目指し、学年が上がるとともに社会的な出来事について述べたり、自分の意見や解釈を添えることができるような課題設定を行い、**英語学習を通じて、人と人とのコミュニケーションの力を培うとともに国際語として世界の中の日本の在り方も視野に入れた学習を進めた。**

	1 学期	2 学期	3 学期
第 1 学年	課 題 「なりきり自己紹介をしよう」 内 容 be 動詞、一般動詞を用いた自己紹介文を書き、スピーチをする。	課 題 「大好きなキャラクター」を紹介しよう。 内 容 三人称単数現在形を用いて、紹介文を書きスピーチをする。	課 題 「自分の一日を発表しよう」 内 容 冬休みの日記を過去形を用いて書く。スピーチコンテストを行う。

第2学年	課題	「留学生に南桑中学校紹介をしよう」	課題	「亀岡の観光パンフレットを作ろう」	課題	「京都の観光案内をしよう」
	内容	助動詞、不定詞を用いて南桑中学校の紹介をする。	内容	接続詞を用いて、亀岡の観光PRをする。	内容	比較級を用いて外国向けに京都の紹介をする。 全校発表の場を持つ。
第3学年	課題	「修学旅行を発表しよう」	課題	「自己PR文を書こう」	課題	「20世紀の偉人」を紹介しよう。
	内容	修学旅行の思い出を順を追って書き、発表する。	内容	既習の文法を全て用いて、自己PRをする。	内容	関係代名詞を用いて、20世紀の偉人のレポートを書き、発表する。

②パフォーマンス課題は、生徒にとっては単元学習のまとめであり、最終発表となる。学習初期には難しい内容も含まれるため、課題を達成するために、学習途中で段階を追ったミニパフォーマンス課題を設定し、提出をさせた。また、生徒の作文は、教師が素早いフィードバックを心がけながら添削指導を行った。

③「作文の内容」「英語表現」「スピーチ」の評価規準を明確にして生徒に提示した。

「作文の内容」については、課題が十分に伝わるものであったか、「英語表現」では、学習してきた文法事項が的確に使えていたか、英文の量が十分であったか、「スピーチ」については、聞く人に訴えかけるものであったかを評価の観点に置いた。

④ICTを用いた発表を学期ごとに行った。3学期には、講座別のスピーチコンテストを行い、代表者による、全校スピーチコンテストを実施した。参加者全員が、体育館で教材提示装置とプロジェクターを用いて、課題の発表を行った。1年生は『私の冬休み』についてスピーチをした。2年生は「旅行会社の社員である」という設定のもとで協同学習を進め、グループになって『京都観光案内』をした。



#### 京都観光案内

パンフレットから、「お勧めの場所」を選んで観光案内をする共同学習。(2年)

教材提示装置とプロジェクターを用いて、紹介する寺社をスクリーンに映し、スピーチの補助材料としている。

#### 4. 成果と課題

##### (1) 成果

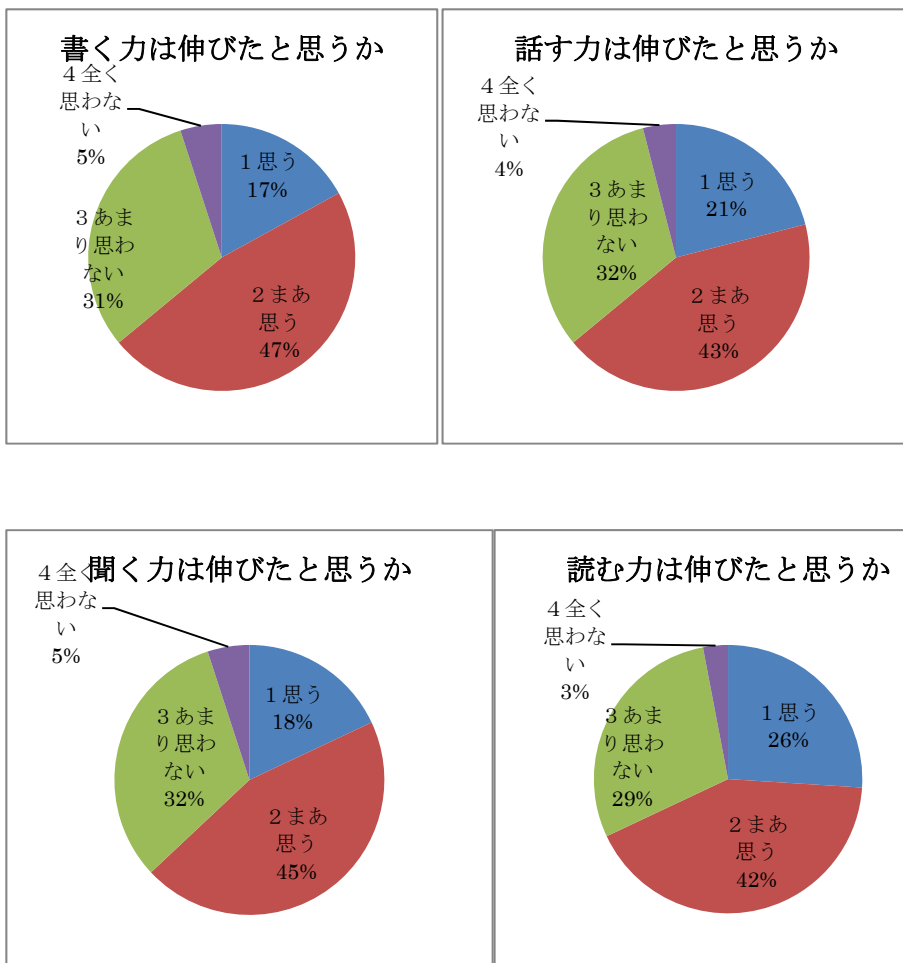
①生徒アンケート調査(2012年4月)から

4技能について、生徒がどれほど習得できたと感じているかを調査したところ、下記のような結果とな

り、全体的に肯定的に捉えている生徒が多いことがわかった。特に「書く力」は生徒が最も苦手とするところであるが、ほかの3技能と同じくらい【思う】【まあ思う】の回答があった。また、本校の取組における【聞く力】とは、人が作文した長い英文を聞きとる力も含まれる。中学生が身につけるには難しく思えるが、プロジェクターと教材提示装置によるプレゼンテーションがスピーチの内容理解を助けたため、生徒がスピーチに関心を持ち、人の話を積極的に聞く姿勢を育てることができたため、肯定的な回答が多かったと考えられる。

このことにより、ICT 機器を英語授業で活用することは、発表する側と聞く側双方の興味、関心を高める ために大変効果的であることが分かった。

パフォーマンス課題に取り組んで



②学力調査による分析では、2011年10月に行われた京都府学力調査の結果、英語は京都府の平均よりも高く、これまでの取組の成果が感じられるものであった。また、学校独自の学力調査で経年比較をしたところ、英語は過去3年間で最も点数が高かった。

このことから英語学習にプレゼンテーションを取り入れた活用型の学習は、学習事項の習得のために大変効果があることが分かった。

## (2) 課題

平成24年度、教育課程の全面改革により、これまで使用してきた教科書が新しくなる。逆向き設計論では、まず3年間を見通した包括的な指導目標をたて、さらに、学年ごとや単元ごとの指導目標を明確にすることが必要になる。

新たな指導計画に基き、これまで取り組んできたパフォーマンス課題の見直しと、新たな課題の設定が必要になる。

また、機器利用とプレゼンテーション能力は、社会人となった時により求められる力であり、重要であるため、中学校からの学びを大切にしたい。

### 参考文献

- ・ 西岡加名恵著(2008)  
逆向き設計で確かな学力を保障する 明治図書
- ・ 西岡加名恵、田中耕治著(2009)  
「活用する力」を育てる授業と評価 学事出版
- ・ カリキュラム設計データベース(CDDB)への招待  
京都大学大学院教育学研究科E. FORUM
- ・ 山田雄一郎(2008)  
「英語学習におけるトレーニングの重要性」 英語教育
- ・ 鈴木寿一(2009)  
「音読指導で英語力を伸ばすための留意点」 英語教育
- ・ 京都市衣笠中学校(2008)  
「活用する力の育成」評価規準づくりに向けての目標・内容分析事例集
- ・ 言語活動ステップアップ事例集 開隆堂出版
- ・ 生徒が主体的に取り組む言語活動のあり方に関する研究  
高見 砂千
- ・ 効率的で実行可能なパフォーマンス評価(2011) 今井裕之 英語教育